

# 2018年度 学費平均額

## 私立大、初年度納入金平均額ダウンの学部系統増

旺文社 教育情報センター 2018年9月10日

志望校を選ぶとき、学費の問題というのは、どうしても避けて通れない。大学受験はもちろん重要な転機ではあるが、長い人生の一通過点。その先、どんなふう生きていくか、ある程度想定しておくことは必要だ。そのためにも、大学進学にかかる費用は知っておきたい。

しかし、各大学の学費を見ても、それが高いのか、低いのかわかりづらい。そこで、だいたいの平均額を理解しておくことが重要になってくる。

実は、一口に大学の学費と言っても、国公立大別でその金額は大きく異なっている。私立大は大学によってさまざま、公立大は同じ大学の中でも地元出身かどうかで別々の金額が設定されていることが多い。

旺文社では進学情報誌『螢雪時代 8月臨時増刊』（7月14日発売）において全国の大学を対象に調査を行い、本年度（2018年度）の学部系統別の初年度納入金平均額を算出した。これらを参考に、早い段階で志望校のおおまかな学費を想定しておこう。

### 【初年度納入金とは…】

入学金や授業料、施設費、実習費、諸会費等、1年次に支払う学費全体のこと。

### ●国立大はどこでもほぼ同額

国立大に関しては、入学金と授業料は文部科学省の決めた標準額の20%増を限度に、各大学が決定することになっている。

### 文部科学省令で定める2018年度の「標準額」

【昼間部】	入学金	282,000円
	授業料	535,800円
	初年度納入金	817,800円
		(入学金と授業料の合計金額)
【夜間部】	入学金	141,000円
	授業料	267,900円
	初年度納入金	408,900円
		(入学金と授業料の合計金額)

2018年度の国立大は、どの大学・学部も文系・理系を問わず、標準額のとおり設定している。基本的に必要な学費は入学金と授業料だが、そのほかに学友会費・学会費、学生教育研究災害損害保険料などが任意徴収される。芸術系では、実習費が必要な場合もある。

●公立大は地域内か地域外か、私立大は学部系統で大きく異なる

公立・私立大学部系統別 初年度納入金平均額(円)

学部系統	公立大 地域内			公立大 地域外			私立大		
	入学金	授業料	初年度納入金	入学金	授業料	初年度納入金	入学金	授業料	初年度納入金
文学部	219,822	535,756	789,843 ↓	356,963	535,750	930,678	232,265 ↓	771,041	1,294,001
外国語学部	207,563	518,119	786,033	362,047	516,940	943,051	233,596 ↓	761,457	1,293,637
人文・教養・人間科学部	216,577	517,660	795,913	362,068 ↓	516,364	945,074	233,506 ↓	785,769	1,305,388
教育・教員養成系学部	234,450 ↓	536,983	832,369	373,673 ↓	537,091	976,815 ↓	238,101 ↓	779,331	1,345,050
法学部	187,275 ↓	533,300	779,033	351,367	533,300	943,125	224,266 ↓	751,226	1,232,330
経済・経営・商学部	212,571 ↓	541,565	813,916 ↓	368,339	541,739	971,217	227,411	755,410	1,260,753
社会・社会福祉学部	212,700	540,944	804,007 ↓	356,520	541,091	949,994 ↓	234,917 ↓	774,209	1,302,107 ↓
国際関係学部	219,920	543,872	826,303	373,250	544,208	983,421	226,392 ↓	797,482	1,308,739 ↓
理学部	219,712 ↓	535,728	803,645 ↓	359,367 ↓	535,725	947,194 ↓	239,135	992,102	1,565,685
工学部	220,642	533,606	805,761	359,565	533,476	947,448	238,725 ↓	1,026,248	1,604,330
農・獣医畜産・水産学部	241,836	535,800	811,533	382,218	535,800	951,915	247,606 ↓	953,577	1,631,228 ↓
医学部	250,625	540,450	928,591	555,571	541,114	1,232,418	1,329,032	2,691,774	7,281,811 ↓
歯学部	282,000	535,800	817,800	520,000	535,800	1,055,800	600,000	3,207,647	5,429,529
薬学部	205,600 ↓	535,800	839,682 ↓	363,320 ↓	535,800	997,402 ↓	326,479 ↓	1,401,496 ↓	2,152,902 ↓
看護・医療・栄養学部	226,562 ↓	537,153	826,853	385,859	537,238	986,035	264,727 ↓	968,656 ↓	1,697,744 ↓
家政・生活科学部	219,435 ↓	539,504	824,251 ↓	387,930 ↓	539,504	992,747 ↓	242,391 ↓	784,660 ↓	1,380,449 ↓
体育・健康科学部	236,500	552,840	854,072	382,760	552,840	1,000,332	242,075 ↓	805,908 ↓	1,401,607
芸術学部	232,542	537,017	827,405	390,009 ↓	537,127	984,364 ↓	239,156 ↓	995,414	1,611,669 ↓

※夜間を含む。

※公立大で地域内・外の区分がないところは地域内に含む。

※入学金と授業料は内訳として表示。そのほか実習費等を合計したものが初年度納入金となる。

※大学によって別途徴収する後援会費等は含まれていない。

※一部、2019年度予定金額も含む。

公立大は、授業料に関しては、大半が国立大と同じに設定している。入学金は大学ごとに幅広く、地元出身者には低く設定しているところが多い。上の表の「地域内」が地元出身者を対象にした金額、「地域外」がそれ以外を表しているが、14万～17万円程度あり、医学部・歯学部系統のみ、差が大きくなっている。

一方、私立大では、大学・学部などによってさまざま。特に、学部系統によって大きく異なっており、初年度納入金平均額がもっとも低い法学部ともっとも高い医学部では、約605万円もの差がある。平均額は、高い順に「医→歯→薬→看護・医療・栄養→農・獣医畜産・水産→芸術→工・理→体育・家政→文系学部」となっている。学費の高い系統は主に、実験や実習があること、そのための専用の施設が必要であること、また、芸術系統などでは少人数や個別の指導が行われることなどが影響している。

●私立大のほとんどの学部系統で入学金ダウン、初年度納入金平均額ダウンの学部系統増

次に、公立大・私立大それぞれに関して、平均額の昨年比を見てみよう。上の表で、下向きの矢印が昨年比ダウンを示している（1,000円以上のダウンのみ矢印を掲載）。

公立大では、地域内・外ともに入学金ダウンの学部系統が多い。入学金、授業料ともにダウンで、初年度納入金もダウンしているのが、教育・教員養成系、家政・生活科学部、地域内では法学部、地域外では芸術学部。特に、教育・教員養成系の地域外と家政・生活科学部の地域内では大幅減となった。薬学部については、地域内・外ともに、授業料は昨年同だが入学金が大幅ダウン、結果、初年度納入金が大幅ダウンした。これは昨年度同様の傾向だ。

一方、国際関係学部と工学部では入学金、授業料アップ、特に入学金の大幅アップにより、初年度納入金が大幅に上がっている。

また、農・獣医畜産・水産、歯、体育・健康科学部に関しては、地域内・外ともに、入学金・授業料・初年度納入金すべて昨年同となった。

私立大では、医・歯学部を除き、全学部系統で入学金ダウン。なかでも、教育・教員養成系、芸術学部で大幅ダウンとなった。

授業料アップとなった学部系統が多いが、薬学部や看護・医療・栄養学部で大幅ダウン、初年度納入金もダウンした。家政・生活科学部でも、入学金・授業料ともにダウンにより、初年度納入金ダウン。社会・社会福祉学部では、授業料はアップしたものの、入学金の下がり幅が大きく、初年度納入金は大幅にダウンした。

一方で、授業料大幅アップにより、教育・教員養成系、法、経済・経営・商、歯学部では初年度納入金も大幅にアップした。

入学金ダウンの学部が多数なのは昨年同様の傾向。昨年度は、一方で、ほぼすべての学部で授業料がアップし、結果として、初年度納入金はアップした。今年度は授業料ダウンの学部系統が増加したことで、初年度納入金ダウンの学部系統がやや多い結果となった。なお、私立大の結果には、特定の大学で全学的に、学費、特に入学金を大きく下げたことが影響している。

### ●同じ学部系統でも、分野によって学費は大きく異なる

ここでひとつ注意したいのが、前ページの表は 18 の「学部系統」別の学費平均額だということ。

旺文社では、学部系統をさらに細かく 70 の「分野」に分類している。分野別に学費平均額を見てみると、ひとつの学部系統のなかでも、大きく異なるものがある。たとえば、私立大の「農・獣医畜産・水産学部系統」を見てみよう。同系統でも、「獣医学」と「水産学」の初年度納入金平均額には約 73 万円の開きがあるのだ。

次のページに、公立・私立大別、分野別の、初年度納入金平均額を掲載した。より詳細に学費を知りたい方は、こちらを併せてご覧いただくのがよいだろう。



学費を調べる際に、授業料などの一項目だけを見て、「高い」「低い」と一喜一憂してしまいがちだ。しかし、実は、授業料には含まれていない必要経費がほかにもあり、“学費”と思っていたものが実際に必要な金額とは大きく異なっていることもある。ひとつの項目で判断せず、初年度納入金全体をしっかりと確認することが大切だ。また、初年度納入金全体で高かったとしても、その理由が少人数教育だったり、施設・設備が充実していたりする場合も十分にある。教育内容と比べて判断することも必要だ。

なお、これまで述べてきたことはあくまで学費の平均額についてであり、個々の大学の実際の学費については、『螢雪時代 8 月臨時増刊』をご参照いただきたい。

